



宮司プレス 第二百一号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年五月二十六日

◇宮司の柴田です。 神池(しんいけ)の菖蒲

(あやめ)が、淡(あわ)い紫(むらさき)色の花を咲かせました。 今月の五日は、「子供の日」でありましたが、この「子供の日」と、ひとくくりにされがちなのが、「端午(たんご)の節句(せつく)」であります。 端午の端は、初めの意味で、月の初めの「午(うま)」の日のことで、五月に限(かぎり)りませんでした。 やがて、中国の漢の時代以降(いこう)に五月五日になり、「端午」とも書かれたようです。 菖蒲(あやめ)を音読みすると「しょうぶ」、これが「尚武(しょうぶ)」につながり、勇ましいイメージがあるために、いつしか「あやめの節句」が「男の子の節句」にもなっていたようです。 余談(よだん)になります。 端午の節句に、「柏餅(かしわもち)」を食べる風習は、江戸時代に始まったと言われています。 「柏」の葉は、新芽が育つまで古い葉が落ちない特性(とくせい)があり、「跡継(あとつ)ぎが絶(た)えない」という子孫繁栄(しそんはんえい)を願う縁起物(えんぎもの)と考えられたようです。

◇さて、本題(ほんだい)にもどりますが、

五月五日という日は、古くは、悪疫退散(あくえきたいさん)を祈願する儀礼(ぎらい)の日でありました。 日本書紀(にほんしよき)には、今をさかのぼること、千三百六十有余年も前、推古天皇(すいこてんおう)が即位(きつゐ)をされて十八年(この時代、元号(げんごう)が使われていません)、西暦(せいれき)六百六十一年五月五日、臣下(しんか)を引き連れて、「粟御(くすりがり)」にお出(い)かけになられたと書かれています。 旧暦(きゅうれき)の五月はすでに夏であり、高温(こうおん)と多湿(たしつ)が運ぶ疫病(えきびょう)は、そのまま命(いのち)への脅威(きょうゐ)（きょうゐ）(きょうゐ)です。 生薬(しょうやく)になる鹿角(ろかく)の(の)や、菖蒲(しょうぶ)などの薬草(やくそう)を、お集(あ)めになったそうです。 菖蒲(しょうぶ)は、神様(かみさま)がおうつりになる依代(よりしろ)と考えられています。 そして、その菖蒲(しょうぶ)の香(か)気(き)は、とりわけ、邪気(じやくき)を祓(はら)う力が強いと考えられていたようです。 天平期(ていへい)の八世紀(はつせい)には、「今後は菖蒲(しょうぶ)のかずら(頭の飾(かざり))をしない者を、宮中(みやちゆう)にうちゅう)に入れてはならぬ」というお触(ふ)

れまで、出されたそうです。 今風(いまふう)に申し上げるならば、薬草(やくそう)のフェースガード(ふうか)でしょうか。 家々(いへい)では、湯船(ゆふね)に浮かべせたり、軒(のき)にふいたり(当宮(とうみや)でも、連休(れんきゅう)中(ちゆう)も、手水舎(てみずしゃ)に掛けました!)、お酒(おさけ)にも入れたり、無病息災(むびよそくさい)の願(ねが)いを菖蒲(しょうぶ)の霊力(れいりよく)に託(たく)したのです。

◇西欧(せいおう)には、「ノーブレス・オブリージュ」という言葉(ことば)があります。 これは、高い地位(たいてい)に伴(ともな)う道徳的(どうとくてき)的(てき)義務(ぎむ)を表(あらわ)す言葉(ことば)です。 しかしながら、日本(にっぽん)では、高い地位(たいてい)でなくても、国民(こくみん)すべての人(ひと)が、責任(せきにん)と義務(ぎむ)を果た(果た)すことを当たり前のこととしてきました。 まさに、コロナ禍(こう)の三年半(さんねはん)、社会的(しゃかいてき)秩序(じつじ)が保(たも)つた要因(よゆういん)にあげられる、「日本人(にっぽんじん)のオブリージュ」ではないでしょうか。 大正(たいしゆう)の末期(まき)から昭和(しやうわ)の時代(じだい)に、駐日(ちゆうじつ)大使(たいし)を務(つと)めたフランス(ふらんす)の詩人(しじん)ポール・クロデル(ポール・クロデル)さんは、前述(ぜんじゆつ)の「日本人(にっぽんじん)のオブリージュ」を次のように述(のたま)べておられます。 「日本(にっぽん)は、貧(ひん)しい、しかし高貴(こうき)です。 地上(ちゆうじやう)で決して滅(ほろ)んでほしくない民族(みんぞく)をただ一つ(ひとつ)挙(あ)げるとすれば、それは日本(にっぽん)です。 今(いま)、日本人(にっぽんじん)が見失(みあ)い(みうしな)おとしているものが、三つ(さん)あるそうです。 一つは、「廉恥心(れんちしん)」、お天道様(おてんと)

さま)が見ている、恥ずかしいことをしてはいけないという心です。それから、「道徳」、人として守らなければならないルールです。さらに、「誇り」です。この三つは、日本人としての理想的な生活の心がけではないでしょうか。この三つを失ってしまうと、クロードルさんの「滅んでほしくない民族」という願いも、虚(むな)しいものとなってしまいます。

◇令和を襲(おそ)った新型コロナウイルス感染症も、長いトンネルを抜け出しそうです。

五類に引き下げられ、少し軽々(かるがる)しいかもしれないが、「普通の病氣」になりつつあります。しかしながら、生かされている尊(とうと)い命だからこそ、作家の寺田寅彦(てらだ とらひこ)さんが、仰(おっしゃ)ったように、「怖がりすぎず」、「怖がらなさすぎず」、これからも、慎み深く、油断(ゆだん)なく生活をすることが大切です。「日本人のオブリージュ」を誇りとして。御自愛ください。

◇五月の祭典行事報告(予定も含む)

▼月次祭 *五月一日、十五日

*五月十五日は、新型コロナウイルス感染症衰勢(すいせい) 奉告祭もあわせて齋行(さいこう)

▼貴布祢神社月次祭 *五月一日

▼花手水実施 *連休期間中



▼塩釜神社例祭 *五月三日



▼衣替え *五月八日

▼朝粥会 *五月二十一日

▼福浦金刀比羅宮例祭 *五月二十一日



▼玄洋中学校校外学習にて参拝

◇五月の宮司動静(予定も含む)

▼神社関係団体

□早起会会計監査 *五月十六日

□奉賛会会計監査 *五月二十二日

□奉賛会役員会 *五月二十六日

▼神社庁関係

□教化部代表者会議 *五月九日

□教化部教化委員会 *五月十三日

□神社庁役員会 *五月十六日

□教化部代表者オンライン会議 *五月二十日

□中国地区祭典後講話研修会 *五月二十九日～三十日

▼人権擁護委員活動

□人権相談(事務局) *五月十日

▼教誨師活動(美祢社会復帰促進センター)

□集合教誨(女子) *五月八日

□釈放前指導講話 *五月三十日

▼自治会、学校関係

□玄洋校区挨拶運動 *五月十日

□玄洋中学校運営協議会 *五月十七日

□自治会役員会 *五月十八日

□彦島町づくり協議会総会 *五月二十四日

▼講演活動

□熊南神社総代会総会 *五月二十二日

□その他

□社会福祉法人松美会理事会 *五月三十一日

□社会福祉法人松美会理事会 *五月三十一日